

裏切・スパイ分子糾弾！

※※※※

昨日の「日刊」で明らかにした通り、佐倉支部オルグをはじめとする組織強化の闘いは、佐倉支部強化、津田沼「特別班」解体、銚子支部結成の取り組みを中心に連日展開され大きな成果をもちつつある。

実体のない「再建」に焦る反動分子

この間の取り組みの中で明らかになったことは、第一に「本部」革マル反動分子の「再建」の「成果」が、実質的には、昨年の「全国大会に参加した七名」の実態を一步も出ておらず、この「七名」に短期転勤者や若干の動揺分子をオドシとペテンで合体させ、全国のまじめな組合員をあさむこうとするのが、「本部」革マル反動分子の「千葉再建」なのである。

であるからこそ、今年八月の全国大会で「昨年と同じ」という報告のできない「本部」革マル反動分子は、権力・当局に「五五・一〇」を売り渡してまで動労千葉への不当処分を哀願し、この不当処分をひとつのテコとして、佐倉、津田沼に「再建」支部↓地本をデッチ上げようとしているのだ。そればかりではない。「四・一五」について、船橋署へ任意出頭し、頭を下げて、動労千葉への刑事弾圧さえも要請している。

これが、「動労」は最も闘う労働組合だ。だから「謀略」だ」と言っている「動労」の現実なのだ。「本部」革マル反動分子が権力・当局の武装親衛隊であり、スパイであることは、このような事実が何よりも鮮明にものがたっている。

不当処分を手引きした裏切・スパイ分子

第二にはっきりしていることは、これらの「再建」策動に口実を与え、動労千葉へ免職を含む不当処分を手引きしたものが、まちがいなく土屋粹をはじめとする裏切・スパイ分子だということである。

「四・一五」の不当処分や、刑事弾圧が、「本部」革マル反動分子の警察にまで出頭してやりなりふりかまわぬタレコミにもかかわらず「実行行為」をもってやるのが「指導責任」で、しかも、それだけでは免職にできず、「春闘の指導責任」まで口実にしなければならぬというところから、この選別不当処分のデタラメさがはつきりとしており、同時に、この免職に対する土屋粹等裏切・スパイ分子の「責任」もはつきりとしているのだ。

80.6.26

No. 466

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二五八〇九・公衆電話（22）七二〇七

われわれは、必ず土屋粹に「責任」をとってもらわなければならない。動労千葉が、千葉における動力車職場の全労働者の将来展望をかけ、全国の国鉄労働者の未来をかけ、信義を尽して話し合っているのに、説得したにもかかわらず、二枚舌をもってそれに応え、「本部」革マル反動分子と結託し、スパイとなり、裏切ったことを許すわけにはいかな

※※※※

私利私欲による裏切りを許すな！

動労千葉の全支部が、全組合員が、独立に当って、悩み、苦しみ、その中から動労千葉結成という道を切り拓いてきたことは紛れもない事実であり現在、佐倉支部組合員が悩み苦しんでいることと全く同じである。

他の支部と佐倉支部の違いは、土屋粹のような私利私欲に走る裏切者がいて、まじめな組合員をダメにしていたかいかの差だけである。

千葉にあって、佐倉支部だけが全く別箇の所にあるのではない。全支部との相互の関係の中で、お互いに存在するのである。土屋粹が、千葉全体の立場に立って「動労千葉はこうあるべきだ」ということを、正々堂々と主張し続けてきたのであれば、われわれは「私利私欲」とは言わない。

動労千葉は動労の中にあって、「本部」革マル反動分子と対決し、いかに「少数」のときでも「労働運動はこうあるべきだ」という観点から「水本」や「貨物安定宣言」を批判し、「船橋闘争」や「反合・三里塚ジェット闘争」を主張してきたのだ。

不純な動機をもって動労千葉に敵対する裏切・スパイ分子を許さず、動労千葉の組織強化をかりとってゆこう。

6/27 結成一周年記念
野球大会（準決勝・決勝）

★千葉市
相銀クラブ
★9時集合
幕張浦
山岩
館新

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！